

高等学校

「役立つ学校図書館を目指して」

鹿児島県立松陽高等学校 学校司書 油田淳子

1. 学校の概要

開校41年

24クラス(普通科18, 音楽科3, 美術科3), 866名在籍(10/1 現在)

NDC でいうと「7類」の学校

2. 図書館について

(1) 基本情報

場所:1 階, 生徒の動線からは少し離れるが教室棟からは近め

面積:約210平方メートル, 60 席, 大きめの教室くらいの広さ

蔵書:約22000冊(ほぼ満杯)

新聞:2 紙(南・朝日)+1 日遅れで職員室の新聞(毎日・読売)をもらっている

雑誌:10誌

朝読書:基本毎日, 各クラスに「PTA 文庫」(平成 28 年度設置)を配布

ビブリオバトル:1, 2 年生, 各クラス内のグループ単位, 1 月開催

(2) 読書と併せて, レファレンスに最大限対応できる図書館にしたい

→「図書館って役に立つなあ〜!」と感じてもらいたい

→図書館を使いこなせる大人になってほしい

→図書館という施設の応援団に

レファレンスを受けつけます, という表明(表示, 図書だより, オリエンテーション)

他館からの借り受け(県図, 鹿児島市図, 日置市図, 他高校)

新聞記事ファイル作り(南日本, 朝日, 毎日, 読売)

カーリルでのオンライン蔵書検索(今年 9 月から開始)

3. 利用激減の分析

実は…「一昨年から、急激に利用(貸出)が減！」

↓

体感として…生徒が来なくなった→魅力がなくなった？司書の努力不足？

↓

原因を分析すると…「総合的な探究の時間」での利用がほぼなくなったことが大

↓

何故なくなったかという…タブレット, スマホの利用が主流に

↓

本や雑誌など紙媒体も使うよう指導はしているはずだが…当然, 楽な方を使う

↓

生徒が図書館へ来なくなると…「ついで借り」もなくなる

楽しむ読書(9類など)は、まだそれほど減っていないけれど…？

4. 問題点の整理

- (1) いい本(資料)を揃えて待つだけでは立ち行かなくなる
- (2) ネットと、どう共存するか(なかった頃には戻れない)
- (3) 先生方に理解・協力を得るには
- (4) 生徒にどう伝えていくか、どうすれば届くのか
- (5) 学校図書館を「学習センター」「情報センター」にするとはどういうことか
- (6) 期待に応えられる蔵書を揃える財力のなさ→利用が減る→費用対効果
→悪循環

5. 今後の学校図書館の課題

- (1) これからの学校図書館の理想・目標とは (設備, 機能, 蔵書…)
- (2) 予算増
- (3) 支援体制の構築
- (4) イメージチェンジ(意識改革?)